

福島大学資料研究所活動報告書

所長 黒沢 高秀

○研究目的

福島大学で所蔵している研究資料や郷土資料の適正保管や活用を図るとともに、図書資料や各種情報と結びつけ、教育・研究・地域との連携を推進する。

○研究メンバー

<研究代表者（研究所長）>

黒沢高秀（共生システム理工学類・教授）

<研究分担者（プロジェクト研究員）>

菊地芳朗（行政政策学類・教授）

阿部浩一（行政政策学類・教授）

塘 忠顕（共生システム理工学類・教授）

徳竹 剛（行政政策学類・准教授）

<連携研究者（プロジェクト客員研究員）>

澁澤 尚（人間発達文化学類・教授）

小松賢司（人間発達文化学類・准教授）

笠井博則（共生システム理工学類・准教授）

難波謙二（共生システム理工学類・教授）

鍵和田賢（人間発達文化学類・准教授）

○研究活動内容

大学貴重資料の整理・活用

昨年に引き続き、経済経営学類と協力して、福島高等商業学校資料に、資料番号を付け分類するなどの整理を行った。

福島大学共生システム理工学類生物標本室（12月以降は福島大学貴重資料保管室植物標本室）FKSEでは2017年4月1日～2018年3月31日の間に、のべ35名の学外の研究者の訪問利用があった。また、行政や研究者からの12件の標本データベースのデータの照会に対応した。県内の博物館からの標本の貸し出し依頼1件（29点）に対応した。県内の博物館に標本の寄贈を1件（20点）行い、国内の博物館1館から交換標本22点を受け入れた。

主催展示事業

南相馬市博物館平成29年度特別展「櫻井先生のあつめた浜通りの花々～櫻井信夫 半世紀、一万点の押し花標本・写真コレクション～」福島大学ステージ（共催：南相馬市博物館）



図1 「櫻井先生のあつめた浜通りの花々～櫻井信夫 半世紀、一万点の押し花標本・写真コレクション～」福島大学ステージの展示の様子。

を2017年4月17日～5月8日に福島大学附属図書館1階展示スペースで開催した。南相馬市博物館の特別展をほぼそのまま再現し、震災前の福島県の海岸の植物標本や、観察した植物の状況を細かく記した地形図の複製、植物写真のパネルなどを展示した（図1）。学内外から多くの人が訪れ、そのうち記帳をした人は主催関係者（研究所メンバーとその研究室学生・ゼミ生）37名、主催関係者以外の学内から61名、学外32名の合計130名になった。福島民友4月21日版に記事が掲載されたほか、福島県立美術館の伊藤匡氏が連載している「みんゆう随想」に取り上げられた（5月2日、レスキューされた植物標本）。

南相馬市博物館平成29年度特別展「東北の自然を押し。東北の押し葉標本展」福島大学ステージ（共催：南相馬市博物館。後援：福島大学、福島大学附属図書館、東北植物研究会、福島県植物研究会）を2017年12月8日～2018年1月17日に福島大学附属図書館1階ロビーで開催した（図2）。福島県天然記念物ビャッコイの標本など、福島大学の学生達や教員の研究に用いられたさく葉標本、標本をもとにした論文、標本の植物に関する新聞記事などを中心に、南相馬市博物館の特別展でも展示された東北植物研究会会員の標本とその解説などを展示した。学内外から多くの人が訪れ、そのうち記



図2 「東北おし葉標本展」福島大学ステージのポスター。

帳をした人は主催関係者 11 名，主催関係者以外の学内から 59 名，学外 12 名の合計 82 名であった。福島民友 1 月 15 日版に記事が掲載された（「東北の「おし葉」紹介 17 日まで福島で標本展」）。

HP による情報発信

HP（http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~kurosawa/IUMC_Fukushima_Univ/fukushima_ac.html）で本研究所および研究所のメンバーの活動を紹介するとともに，県内を中心とする貴重資料や関連行事のニュース 14 件などを「お知らせ」欄などに掲載した。

後援事業

2017 年 6 月 17 日に郡山市民プラザで開催された「ふくしまの未来へつなぐ，伝える一歴史・文化・震災遺産の保全と活用の今一」（主催ふくしま歴史資料保存ネットワーク）を後援した。

2017 年 11 月 3 日～12 月 3 日に南相馬市博物館で開催された「第 11 回東北おし葉標本展」（主催：東北植物研究会）を後援した。